

平成7年度 社 会 保 障 費

国立社会保障・人口問題研究所 総合企画部
勝又幸子・山田篤裕・磯崎修夫

この社会保障費は、ILO 基準に従い、国内の社会保障各制度の給付費とその財源について、平成7年度の決算をもとに推計し、平成9年度にまとめ公表したものである。

第1部 平成7年度社会保障給付費

I 社会保障給付費の範囲

1. 社会保障給付費の範囲は、ILO（国際労働機関）が国際比較上定めた社会保障の基準に基づいて決定されている。

ILO では、社会保障の基準を次のように定めている。すなわち、以下の3基準を満たすすべての制度を社会保障制度と定義する。

- ① 制度の目的が、治療的又は予防的医療を提供するもの、所得保障を行うもの、あるいは扶養家族に対して補足的給付を提供するものであること。
- ② 制度が法律によって定められ、それによって特定の個人に権利が付与され、あるいは公的、準公的、若しくは独立の機関によって責任が課せられるものであること。
- ③ 制度が公的、準公的、若しくは独立の機関によって管理されていること。

ただし、業務災害補償は、その責任が直接事業主に課せられているので、上記③を満たさないが、社会保障に含める。

上記の基準に従えば、社会保障制度として、

社会保険制度（雇用保険や労働者災害補償保険を含む）、家族手当制度、公務員に対する特別制度、公衆衛生サービス、公的扶助、社会福祉制度、戦争犠牲者に対する給付などが含まれる。

社会保障給付費は、上記のILO 基準に従い、国内の社会保障各制度の給付費について、毎年度の決算をもとに推計したものである。（統計表：表1-7「ILO 基準による平成7年度社会保障費用」参照）

2. 社会保障給付費の「医療」「年金」「その他」別分類は次のとおりである。

「医療」には、医療保険、老人保健の医療給付、生活保護の医療扶助、労災保険の医療給付、結核、精神その他の公費負担医療、保健所等が行う公衆衛生サービスに係る費用等が含まれる。

「年金」には、厚生年金、国民年金等の公的年金、恩給及び労災保険の年金給付等が含まれる。

「その他」には、生活保護の医療扶助以外の各種扶助、児童手当等の各種手当、施設措置費等社会福祉サービスに係る費用、医療保険の傷病手当金、労災保険の休業補償給付、雇用保険の失業給付等が含まれる。

Ⅱ 7年度社会保障給付費推計結果の概要

1. 平成7年度の社会保障給付費の総額は64兆7,264億円である。

(1) 部門別社会保障給付費をみると、「医療」

表1 部門別社会保障給付費

社会保障給付費	平成6年度	平成7年度	対前年度比	
			増加額	伸び率
	億円	億円	億円	%
計	604,657 (100.0)	647,264 (100.0)	42,607	7.0
医療	228,725 (37.8)	240,592 (37.2)	11,868	5.2
年金	310,084 (51.3)	334,986 (51.8)	24,902	8.0
その他	65,849 (10.9)	71,686 (11.1)	5,837	8.9

(注) ()内は構成割合である。

が24兆592億円(37.2%),「年金」が33兆4,986億円(51.8%),「その他」が7兆1,686億円(11.1%)である。

表2 部門別社会保障給付費の対国民所得比

社会保障給付費	平成6年度	平成7年度	対前年度増加分
	%	%	%ポイント
計	16.21	17.05	0.837
医療	6.13	6.34	0.205
年金	8.31	8.82	0.509
その他	1.77	1.89	0.123

表3 1人(1世帯)当たり社会保障給付費

社会保障給付費	平成6年度	平成7年度	対前年度比	
			増加額	伸び率
	千円	千円	千円	%
1人当たり	483.6	515.5	31.9	6.6
1世帯当たり	1,424.8	1,502.4	77.6	5.4

(注) 1世帯当たり社会保障給付費=(世帯人員総数/世帯総数)×1人当たり社会保障給付費によって算出した。

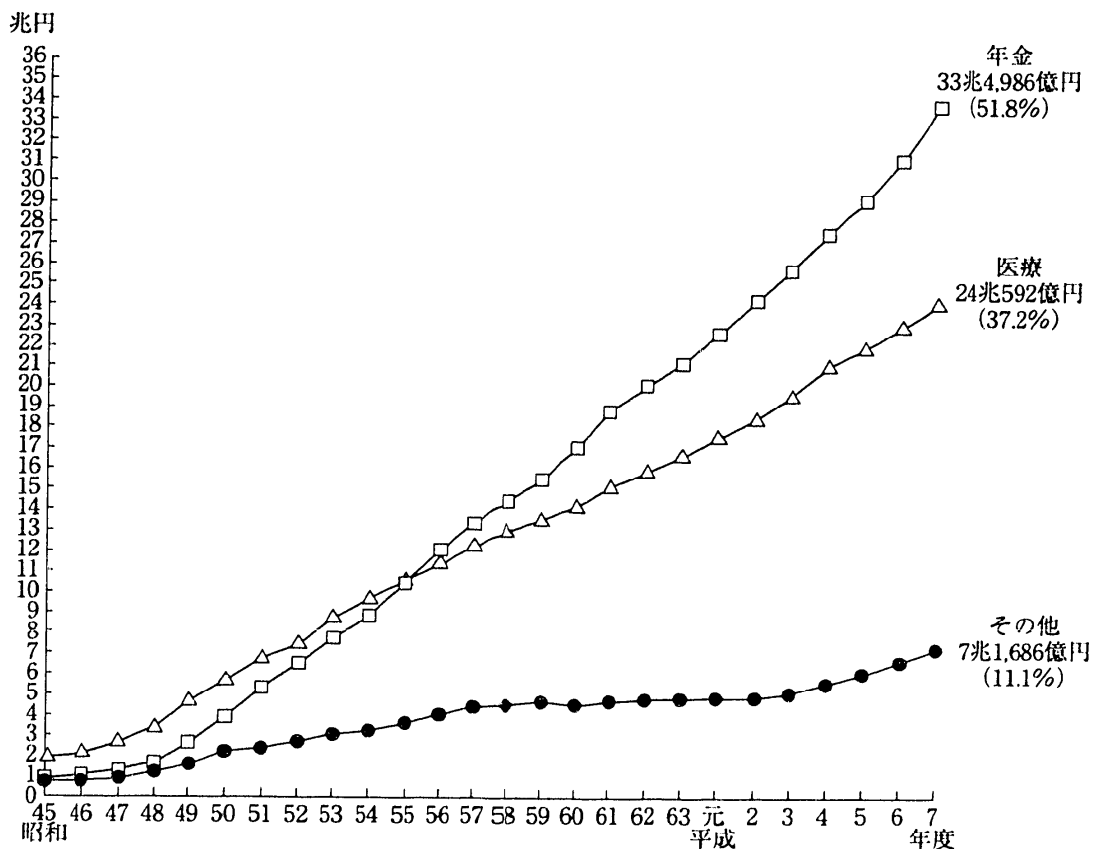


図1 社会保障給付費の部門別推移

(2) 平成7年度社会保障給付費の対前年度伸び率は7.0%であり、対国民所得比は17.05%である。

(3) 国民1人当たり社会保障給付費は51万5,500円であり、1世帯当たりでは150万2,400円となっている。

2. 年金保険給付費, 老人保健(医療分)給付費, 老人福祉サービス給付費, 及び新設された高年齢雇用継続給付費を合わせた高齢者関係給付費は, 平成7年度には40兆7,109億円となり, 社会保障給付費に対する割合は62.9%である。

表4 高齢者関係給付費

	平成6年度	平成7年度	対前年度伸び率
	億円	億円	%
社会保障給付費	604,657 (100.0)	647,264 (100.0)	7.0
年金保険給付費	286,248	311,565	8.8
老人保健(医療分)給付費	77,804	84,525	8.6
老人福祉サービス給付費	9,066	10,902	20.3
高年齢雇用継続給付費	—	117	—
計	373,117 (61.7)	407,109 (62.9)	9.1
	万人	万人	%
60歳以上人口	2,491	2,610	4.8
65歳以上人口	1,759	1,826	3.8
70歳以上人口	1,136	1,187	4.5
75歳以上人口	687	717	4.4

(注)

- ()内は社会保障給付費に占める割合である。
- 老人福祉サービス給付費は、施設福祉サービス関係給付費及び在宅福祉サービス関係給付費からなる。
- 高年齢雇用継続給付費は、60歳から65歳までの継続雇用、再就職の促進を図る観点から、60歳時点に比して賃金額が相当程度低下した状態で雇用を継続する高年齢者に対し、60歳以後の賃金額の25%相当額を65歳に達するまでの間支給するものである。本給付費は平成7年度より新規計上された。

Ⅲ 統計表

表 1-1 社会保障給付費の部門別推移

年度	社会保障給付費						国民所得 (億円)	
	計 (億円)	医療 (億円)	構成割合 (%)	年金・その他 (億円)		構成割合 (%)		
昭和 25 (1950)	1,261	646	51.2	615		48.8		—
26 (1951)	1,571	804	51.1	768		48.9		44,346
27 (1952)	2,194	1,149	52.3	1,046		47.7		52,159
28 (1953)	2,577	1,480	57.5	1,096		42.5		60,015
29 (1954)	3,841	1,712	44.6	2,129		55.4		65,917
30 (1955)	3,893	1,919	49.3	1,974		50.7		69,733
31 (1956)	3,986	2,018	50.6	1,969		49.4		78,962
32 (1957)	4,357	2,224	51.0	2,133		49.0		88,681
33 (1958)	5,080	2,099	41.3	2,981		58.7		93,829
34 (1959)	5,778	2,523	43.7	3,255		56.3		110,421
35 (1960)	6,553	2,942	44.9	3,611		55.1		134,967
36 (1961)	7,900	3,850	48.7	4,050		51.3		160,819
37 (1962)	9,219	4,699	51.0	4,520		49.0		178,933
38 (1963)	11,214	5,885	52.5	5,329		47.5		210,993
				年金 (億円)	構成割合 (%)	その他 (億円)	構成割合 (%)	
				39 (1964)	13,475	7,328	54.4	3,056
40 (1965)	16,037	9,137	57.0	3,508	21.9	3,392	21.2	268,270
41 (1966)	18,670	10,766	57.7	4,199	22.5	3,705	19.8	316,448
42 (1967)	21,644	12,583	58.1	4,947	22.9	4,114	19.0	375,477
43 (1968)	25,096	14,679	58.5	5,835	23.3	4,582	18.3	437,209
44 (1969)	28,732	16,975	59.1	6,915	24.1	4,842	16.9	521,178
45 (1970)	35,239	20,758	58.9	8,548	24.3	5,933	16.8	610,297
46 (1971)	40,225	22,498	55.9	10,152	25.2	7,575	18.8	659,105
47 (1972)	49,645	27,938	56.3	12,323	24.8	9,384	18.9	779,369
48 (1973)	62,538	34,227	54.7	16,702	26.7	11,609	18.6	958,396
49 (1974)	90,218	47,153	52.3	26,708	29.6	16,357	18.1	1,124,716
50 (1975)	117,715	57,064	48.5	38,865	33.0	21,786	18.5	1,239,907
51 (1976)	145,080	68,023	46.9	53,344	36.8	23,713	16.3	1,403,972
52 (1977)	168,777	75,977	45.0	65,993	39.1	26,807	15.9	1,557,032
53 (1978)	197,622	88,827	44.9	78,538	39.7	30,258	15.3	1,717,785
54 (1979)	219,732	97,346	44.3	89,987	41.0	32,399	14.7	1,822,066
55 (1980)	247,632	106,934	43.2	104,709	42.3	35,988	14.5	1,995,902
56 (1981)	275,526	114,815	41.7	120,616	43.8	40,096	14.6	2,097,489
57 (1982)	300,882	123,826	41.2	133,604	44.4	43,451	14.4	2,193,918
58 (1983)	319,645	130,684	40.9	144,319	45.1	44,642	14.0	2,308,057
59 (1984)	336,278	135,314	40.2	154,748	46.0	46,217	13.7	2,436,089
60 (1985)	356,682	142,483	39.9	169,154	47.4	45,045	12.6	2,602,784

表 1-1 つづき

年度	社会保障給付費							国民所得 (億円)
	計 (億円)	医療 (億円)	構成割合 (%)	年金 (億円)	構成割合 (%)	その他 (億円)	構成割合 (%)	
61 (1986)	385,822	151,170	39.2	187,863	48.7	46,789	12.1	2,711,297
62 (1987)	406,592	159,042	39.1	200,112	49.2	47,438	11.7	2,838,955
63 (1988)	424,492	166,409	39.2	210,698	49.6	47,385	11.2	3,013,800
平成元 (1989)	448,711	174,967	39.0	225,645	50.3	48,100	10.7	3,221,436
2 (1990)	472,047	183,495	38.9	240,648	51.0	47,905	10.1	3,457,391
3 (1991)	501,203	194,764	38.9	256,367	51.2	50,072	10.0	3,630,542
4 (1992)	538,164	209,395	38.9	274,013	50.9	54,756	10.2	3,690,881
5 (1993)	567,975	218,059	38.4	290,376	51.1	59,539	10.5	3,724,645
6 (1994)	604,657	228,725	37.8	310,084	51.3	65,849	10.9	3,730,348
7 (1995)	647,264	240,592	37.2	334,986	51.8	71,686	11.1	3,797,201

(注) 四捨五入の関係で総数が一致しない場合がある。

(資料) 国民所得は、昭和29年度以前は、経済企画庁「昭和53年版国民所得統計年報」、昭和30-44年度は、同「長期週及推計国民経済計算報告」、昭和45年度以降は、同「平成9年度版国民経済計算年報」による。

表1-2 社会保障給付費(対国民所得比)の部門別推移
(単位: %)

年度	社会保障給付費			
	計	医療	年金	その他
昭和26(1951)	3.54	1.81	1.73	
27(1952)	4.21	2.20	2.01	
28(1953)	4.29	2.47	1.83	
29(1954)	5.83	2.60	3.23	
30(1955)	5.58	2.75	2.83	
31(1956)	5.05	2.56	2.49	
32(1957)	4.91	2.51	2.41	
33(1958)	5.41	2.24	3.18	
34(1959)	5.23	2.28	2.95	
35(1960)	4.86	2.18	2.68	
36(1961)	4.91	2.39	2.52	
37(1962)	5.15	2.63	2.53	
38(1963)	5.31	2.79	2.53	
39(1964)	5.60	3.05	1.27	1.29
40(1965)	5.98	3.41	1.31	1.26
41(1966)	5.90	3.40	1.33	1.17
42(1967)	5.76	3.35	1.32	1.10
43(1968)	5.74	3.36	1.33	1.05
44(1969)	5.51	3.26	1.33	0.93
45(1970)	5.77	3.40	1.40	0.97
46(1971)	6.10	3.41	1.54	1.15
47(1972)	6.37	3.58	1.58	1.20
48(1973)	6.53	3.57	1.74	1.21
49(1974)	8.02	4.19	2.37	1.45
50(1975)	9.49	4.60	3.13	1.76
51(1976)	10.33	4.85	3.80	1.69
52(1977)	10.84	4.88	4.24	1.72
53(1978)	11.50	5.17	4.57	1.76
54(1979)	12.06	5.34	4.94	1.78
55(1980)	12.41	5.36	5.25	1.80
56(1981)	13.14	5.47	5.75	1.91
57(1982)	13.71	5.64	6.09	1.98
58(1983)	13.85	5.66	6.25	1.93
59(1984)	13.80	5.55	6.35	1.90
60(1985)	13.70	5.47	6.50	1.73
61(1986)	14.23	5.58	6.93	1.73
62(1987)	14.32	5.60	7.05	1.67
63(1988)	14.08	5.52	6.99	1.57
平成元(1989)	13.93	5.43	7.00	1.49
2(1990)	13.65	5.31	6.96	1.39
3(1991)	13.81	5.36	7.06	1.38
4(1992)	14.58	5.67	7.42	1.48
5(1993)	15.25	5.85	7.80	1.60
6(1994)	16.21	6.13	8.31	1.77
7(1995)	17.05	6.34	8.82	1.89

表1-3 社会保障給付費と国民所得の対前年度伸び率の推移
(単位: %)

年度	社会保障給付費				国民所得
	計	医療	年金	その他	
昭和26(1951)	24.6	24.5	24.9		—
27(1952)	39.7	42.9	36.2		17.6
28(1953)	17.5	28.8	4.8		15.1
29(1954)	49.0	15.7	94.3		9.8
30(1955)	1.4	12.1	△ 7.3		5.8
31(1956)	2.4	5.2	△ 0.3		13.2
32(1957)	9.3	10.2	8.3		12.3
33(1958)	16.6	△ 5.6	39.8		5.8
34(1959)	13.7	20.2	9.2		17.7
35(1960)	13.4	16.6	10.9		22.2
36(1961)	20.6	30.9	12.2		19.2
37(1962)	16.7	22.1	11.6		11.3
38(1963)	21.6	25.2	17.9		17.9
39(1964)	20.2	24.5	15.3		14.0
40(1965)	19.0	24.7	14.8	9.7	11.5
41(1966)	16.4	17.8	19.7	9.2	18.0
42(1967)	15.9	16.9	17.8	11.0	18.7
43(1968)	15.9	16.7	18.0	11.4	16.4
44(1969)	14.5	15.6	18.5	5.7	19.2
45(1970)	22.6	22.3	23.6	22.5	17.1
46(1971)	14.1	8.4	18.8	27.7	8.0
47(1972)	23.4	24.2	21.4	23.9	18.2
48(1973)	26.0	22.5	35.5	23.7	23.0
49(1974)	44.3	37.8	59.9	40.9	17.4
50(1975)	30.5	21.0	45.5	33.2	10.2
51(1976)	23.2	19.2	37.3	8.8	13.2
52(1977)	16.3	11.7	23.7	13.0	10.9
53(1978)	17.1	16.9	19.0	12.9	10.3
54(1979)	11.2	9.6	14.6	7.1	6.1
55(1980)	12.7	9.8	16.4	11.1	9.5
56(1981)	11.3	7.4	15.2	11.4	5.1
57(1982)	9.2	7.8	10.8	8.4	4.6
58(1983)	6.2	5.5	8.0	2.7	5.2
59(1984)	5.2	3.5	7.2	3.5	5.5
60(1985)	6.1	5.3	9.3	△ 2.5	6.8
61(1986)	8.2	6.1	11.1	3.9	4.2
62(1987)	5.4	5.2	6.5	1.4	4.7
63(1988)	4.4	4.6	5.3	△ 0.1	6.2
平成元(1989)	5.7	5.1	7.1	1.5	6.9
2(1990)	5.2	4.9	6.6	△ 0.4	7.3
3(1991)	6.2	6.1	6.5	4.5	5.0
4(1992)	7.4	7.5	6.9	9.4	1.7
5(1993)	5.5	4.1	6.0	8.7	0.9
6(1994)	6.5	4.9	6.8	10.6	0.2
7(1995)	7.0	5.2	8.0	8.9	1.8

表 1-4 1人当たり社会保障給付費と1人当たり国民所得の推移

年度	1人当たり社会保障給付費		1人当たり国民所得	
	実額 千円	指数 昭和48年=100	実額 千円	指数 昭和48年=100
昭和26(1951)	1.9	3.3	52.5	6.0
27(1952)	2.6	4.5	60.8	6.9
28(1953)	3.0	5.2	69.0	7.8
29(1954)	4.4	7.7	74.7	8.5
30(1955)	4.4	7.7	78.2	8.9
31(1956)	4.4	7.7	87.6	10.0
32(1957)	4.8	8.4	97.6	11.1
33(1958)	5.5	9.6	102.3	11.6
34(1959)	6.2	10.8	119.2	13.6
35(1960)	7.0	12.2	144.5	16.4
36(1961)	8.4	14.7	170.6	19.4
37(1962)	9.7	16.9	188.1	21.4
38(1963)	11.7	20.4	219.5	25.0
39(1964)	13.7	23.9	247.6	28.2
40(1965)	16.2	28.2	273.2	31.1
41(1966)	18.9	32.9	319.6	36.4
42(1967)	21.6	37.7	375.0	42.7
43(1968)	24.8	43.2	431.7	49.1
44(1969)	28.0	48.9	508.7	57.9
45(1970)	33.7	58.7	588.7	67.0
46(1971)	37.9	66.1	627.3	71.4
47(1972)	46.1	80.5	726.0	82.6
48(1973)	57.3	100.0	879.1	100.0
49(1974)	81.6	142.3	1,018.1	115.8
50(1975)	105.2	183.5	1,108.7	126.1
51(1976)	128.3	223.8	1,242.4	141.3
52(1977)	147.8	257.9	1,364.7	155.2
53(1978)	171.6	299.3	1,492.2	169.7
54(1979)	189.2	330.0	1,569.6	178.5
55(1980)	211.5	369.1	1,706.1	194.1
56(1981)	233.7	407.7	1,780.1	202.5
57(1982)	253.4	442.1	1,848.9	210.3
58(1983)	267.4	466.5	1,931.9	219.8
59(1984)	279.5	487.7	2,026.0	230.5
60(1985)	294.7	514.1	2,151.6	244.7
61(1986)	317.1	553.3	2,229.7	253.6
62(1987)	332.6	580.3	2,323.9	264.3
63(1988)	345.8	603.3	2,456.8	279.5
平成元(1989)	364.2	635.4	2,616.2	297.6
2(1990)	381.9	666.2	2,798.4	318.3
3(1991)	404.1	704.9	2,928.4	333.1
4(1992)	432.4	754.4	2,967.7	337.6
5(1993)	455.2	794.2	2,987.2	339.8
6(1994)	483.6	843.7	2,984.7	339.5
7(1995)	515.5	899.3	3,029.1	344.6

表 1-5 高齢者関係給付費の推移

年度	年金保険 給付費	老人保健 (医療分) 給付費	老人福祉 サービス 給付費	高年齢 雇用継続 給付費	計			社会保障給付費	
					対前年度 伸び率	給付費に 占める割合	対前年度 伸び率		
	億円	億円	億円	億円	億円	%	%	億円	%
昭和 48 (1973)	10,701	4,289	596	—	15,586	—	24.9	62,538	—
49 (1974)	19,131	6,652	877	—	26,660	71.1	29.6	90,218	44.3
50 (1975)	28,958	8,666	1,164	—	38,788	45.5	33.0	117,715	30.5
51 (1976)	40,626	10,780	1,489	—	52,895	36.4	36.5	145,080	23.2
52 (1977)	50,865	12,872	1,798	—	65,535	23.9	38.8	168,777	16.3
53 (1978)	61,247	15,948	2,060	—	79,255	20.9	40.1	197,622	17.1
54 (1979)	70,813	18,503	2,306	—	91,622	15.6	41.7	219,732	11.2
55 (1980)	83,591	21,269	2,560	—	107,420	17.2	43.4	247,632	12.7
56 (1981)	97,813	24,280	2,822	—	124,915	16.3	45.3	275,526	11.3
57 (1982)	109,460	27,450	3,129	—	140,039	12.1	46.5	300,882	9.2
58 (1983)	120,034	32,660	3,306	—	156,000	11.4	48.8	319,645	6.2
59 (1984)	130,412	35,534	3,467	—	169,413	8.6	50.4	336,278	5.2
60 (1985)	144,466	40,070	3,668	—	188,204	11.1	52.8	356,682	6.1
61 (1986)	163,064	43,584	4,075	—	210,723	12.0	54.6	385,822	8.2
62 (1987)	174,999	46,638	4,278	—	225,915	7.2	55.6	406,592	5.4
63 (1988)	185,811	49,824	4,569	—	240,204	6.3	56.6	424,492	4.4
平成元 (1989)	201,051	53,730	5,106	—	259,887	8.2	57.9	448,711	5.7
2 (1990)	216,110	57,331	5,749	—	279,190	7.4	59.1	472,047	5.2
3 (1991)	231,840	61,976	6,552	—	300,368	7.6	59.9	501,203	6.2
4 (1992)	249,728	66,685	7,456	—	323,869	7.8	60.2	538,164	7.4
5 (1993)	266,135	71,394	8,171	—	345,700	6.7	60.9	567,975	5.5
6 (1994)	286,248	77,804	9,066	—	373,118	7.9	61.7	604,657	6.5
7 (1995)	311,565	84,525	10,902	117	407,109	9.1	62.9	647,264	7.0

表 1-6 制度別社会保障給付費の推移

	昭和 61 (1986)	昭和 62 (1987)	昭和 63 (1988)	平成元 (1989)	平成 2 (1990)	平成 3 (1991)	平成 4 (1992)	平成 5 (1993)	平成 6 (1994)	平成 7 (1995)
総計	38,582,236	40,659,215	42,449,224	44,871,146	47,204,717	50,120,323	53,816,402	56,797,465	60,465,675	64,726,420
医療保険	9,717,554	10,227,430	10,625,133	11,057,150	11,554,230	12,208,723	13,178,492	13,620,289	14,122,562	14,630,375
老人保健	4,419,219	4,733,700	5,057,697	5,457,648	5,827,668	6,302,277	6,791,681	7,271,074	7,909,604	8,582,796
年金保険	16,306,399	17,499,946	18,581,081	20,105,100	21,610,989	23,183,991	24,972,833	26,619,877	28,624,789	31,156,538
雇用保険	1,294,723	1,330,696	1,299,429	1,298,348	1,166,993	1,177,206	1,355,230	1,628,296	1,897,070	2,202,249
業務災害補償	892,712	894,803	903,452	912,410	927,421	950,955	973,191	993,456	1,000,132	1,021,920
家族手当	460,428	457,425	449,985	446,506	444,936	443,920	526,733	507,158	492,821	511,187
生活保護	1,471,032	1,432,475	1,367,434	1,345,671	1,292,778	1,282,656	1,300,998	1,337,804	1,383,898	1,484,894
社会福祉	1,345,012	1,373,267	1,421,477	1,535,809	1,662,188	1,837,005	2,276,762	2,143,728	2,431,341	2,603,244
公衆衛生	543,904	534,344	594,341	613,679	643,619	681,330	706,624	659,052	620,447	606,822
恩給	1,914,670	1,935,588	1,899,800	1,865,089	1,849,026	1,835,660	1,830,506	1,809,489	1,771,104	1,720,624
戦争犠牲者援護	216,583	239,540	249,394	233,736	224,869	216,598	212,751	207,242	211,908	205,771
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
医療保険	25.2	25.2	25.0	24.6	24.5	24.4	24.5	24.0	23.4	22.6
老人保健	11.5	11.6	11.9	12.2	12.3	12.6	12.6	12.8	13.1	13.3
年金保険	42.3	43.0	43.8	44.8	45.8	46.3	46.4	46.9	47.3	48.1
雇用保険	3.4	3.3	3.1	2.9	2.5	2.3	2.5	2.9	3.1	3.4
業務災害補償	2.3	2.2	2.1	2.0	2.0	1.9	1.8	1.7	1.7	1.6
家族手当	1.2	1.1	1.1	1.0	0.9	0.9	1.0	0.9	0.8	0.8
生活保護	3.8	3.5	3.2	3.0	2.7	2.6	2.4	2.4	2.3	2.3
社会福祉	3.5	3.4	3.3	3.4	3.5	3.7	4.2	3.8	4.0	4.0
公衆衛生	1.4	1.3	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.2	1.0	0.9
恩給	5.0	4.8	4.5	4.2	3.9	3.7	3.4	3.2	2.9	2.7
戦争犠牲者援護	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3

給付費
百万円構成割合
%

(注) 1. 老人保健には医療を含む保健事業すべてが計上されている。
 2. 家族手当は、児童手当のほか、社会福祉中の児童扶養手当及び特別児童扶養手当を含む。

表 1-7 ILO 基準による平成 7 年度社会保障費用

(単位:百万円)

	収 入										給		
	拠 出		社会保険 特 別 税	国庫負担	他の公費負担	資産収入	そ の 他	小 計	他制度からの 移転	収入合計	疾病・出産		
	被保険者	事業主									医 療	現 金	医 療
社会保険													
健康保険													
1(A) 府県管掌健康保険	2,832,540	2,859,429	—	978,794	—	20,040	223,799	6,914,603	1,795	6,916,397	4,224,109	363,644	—
1(B) 組合管掌健康保険	2,323,201	3,018,656	—	71,988	—	118,545	484,333	6,016,732	—	6,016,732	3,024,568	246,384	—
2 国民健康保険	3,092,965	—	—	2,993,150	821,543	—	444,857	7,352,515	853,988	8,206,502	5,313,403	112,546	—
退職者医療制度(再掲)	359,711	—	—	—	—	—	—	359,711	853,988	1,213,699	1,217,885	—	—
3 老人保健	—	—	—	1,863,093	925,433	—	—	2,788,526	5,566,461	8,355,187	8,452,519	—	—
4 厚生年金保険	9,346,641	9,346,641	—	2,875,955	—	5,526,757	19,772	27,115,766	11,008,438	38,124,204	—	—	—
5 厚生年金基金等	897,942	2,352,924	—	622	—	1,399,184	12,912	4,663,585	64,771	4,728,356	—	—	—
6 国民年金	1,825,122	—	—	1,516,640	—	395,043	1,357,955	5,094,760	8,324,975	13,419,735	—	—	—
7 農業者年金基金等	206,089	—	—	106,884	—	11,439	711	325,124	—	325,124	—	—	—
8 船員保険	28,640	65,210	—	6,208	—	4,624	1,334	106,015	2,275	108,290	30,846	5,154	6,953
9 農林漁業団体職員共済組合	157,661	157,661	—	53,003	—	87,570	7,241	463,135	68,930	532,066	—	—	—
10 私立学校教職員共済組合	183,912	179,608	—	30,102	8,980	106,104	1,439	510,145	29,480	539,625	95,213	6,488	—
11 雇用保険	622,844	1,168,019	—	338,238	—	263,347	308,377	2,700,824	—	2,700,824	—	11,848	—
12 労働者災害補償保険	—	1,536,565	—	1,307	—	235,742	286,296	2,059,910	—	2,059,910	—	—	269,368
家族手当													
13 児童手当	—	156,148	—	14,347	27,652	—	26,845	224,992	—	224,992	—	—	—
公務員													
国家公務員等共済組合													
14(A) 国家公務員共済組合	640,554	1,247,155	—	104,167	—	352,244	42,108	2,386,268	632,819	3,019,087	227,346	14,650	—
14(B) 旧公共企業体職員等共済組合	309,537	916,168	—	72,635	—	115,885	21,601	1,435,826	494,137	1,929,963	118,542	5,595	—
15 地方公務員等共済組合	1,945,080	3,529,344	—	7,910	264,842	1,171,500	6,868	6,926,444	1,805,585	8,732,029	688,447	55,676	—
16 旧令共済組合等	—	1,590	—	20,873	—	66	0	22,529	—	22,529	49	1,740	—
17 国家公務員災害補償	—	12,630	—	—	—	—	—	12,630	—	12,630	—	—	4,414
18 地方公務員等災害補償	0	28,906	—	—	—	3,516	871	33,292	—	33,292	—	—	7,664
19 旧公共企業体職員業務災害	—	7,877	—	—	—	—	—	7,877	—	7,877	—	—	61
20 国家公務員恩給	965	88,013	—	890	—	—	—	89,868	—	89,868	—	—	—
21 地方公務員恩給	—	134,928	—	—	—	—	—	134,928	—	134,928	—	—	—
公衆保健サービス													
22 公衆衛生	—	—	—	673,572	283,040	—	—	956,612	—	956,612	609,897	115,473	—
公的扶助及び社会福祉													
23 生活保護	—	—	—	1,165,129	373,791	—	—	1,538,921	—	1,538,921	881,899	129	—
24 社会福祉	—	—	—	1,961,393	1,516,568	—	—	3,477,961	—	3,477,961	101,135	—	—
戦争犠牲者													
25 戦争犠牲者	—	—	—	1,711,111	—	—	—	1,711,111	—	1,711,111	2,810	—	—
総計	24,414,593	26,807,513	—	16,568,011	4,221,848	9,811,606	3,247,318	85,070,899	28,853,854	113,924,753	23,770,784	939,325	288,464

表1-7 つづき

[illegible]

(注)

1. 本表はILO事務局による「社会保障費用調査」の基準に従って算出したものである。
2. 「老人保健」は、医療、特定療養費の支出及び老人保健施設施設療養費、老人訪問看護療養費の支出に関するもののみを計上しており、これらを除く保健事業に関するものは「公衆衛生」に計上している。
3. 国民年金は、福祉年金及び基礎年金を含む。
4. 農業者年金基金等は、国民年金基金を含む。
5. 公衆衛生は、結核医療等の公費負担医療を含む。
6. 家族手当は、児童手当のほか、社会福祉中の児童扶養手当及び特別児童扶養手当を含む。
7. 四捨五入の關係で計に一致しない場合がある。0は百万円単位で四捨五入するとゼロであることを示す。
8. 平成7年度より高齢者雇用継続給付と育児休業給付が新設されたため、前者を「11. 雇用保険」の「現金給付」とし、後者を「11. 雇用保険」および各共済組合の「疾病・出産」の「現金」に計上した。

(備考) 社会保障費用の項目説明

1. 収入項目
 - (1) 資産収入：利子、利息、配当金、施設利用料、賃貸料、財産処分益、償還差益等。
 - (2) 他制度からの移転：政府管掌健康保険が組合管掌健康保険及び国民健康保険から受ける日雇い拠出金、国民健康保険が医療保険各制度から受ける退職者医療分にかかる療養給付費交付金、老人保健が医療保険各制度から受ける医療費拠出金。国民年金が年金保険制度から受け取る基礎年金拠出金、年金保険各制度が国民年金から受ける基礎年金交付金、年金保険者各制度が制度間調整勘定から受ける交付金等。
 - (3) その他の収入：受取延滞金、損害賠償金、手数料、補助金、分担金、繰入金、繰越金、雑収入等。
2. 支出項目
 - (1) 管理費：業務取扱費、事務費、総務費、基金運営費、業務委託費、組合会費、旅費等。
 - (2) 他制度への移転：医療保険各制度から日雇特別、退職者医療及び老人保健への拠出金。年金保険各制度の国民年金に対する基礎年金拠出金、国民年金の年金保険各制度に対する基礎年金交付金、年金保険各制度の制度間調整勘定への拠出金等。
 - (3) その他の支出：支払基金事務費、施設整備費、保健施設費、福祉施設費、組合債費、保険料等還付金、負担金等。

第2部 平成7年度社会保障財源

I 社会保障財源の範囲

社会保障財源は、ILO基準では給付費の統計において推計された各制度の収入を8分類して示している。それらは、①拠出（被保険者）、②拠出（事業主）、③社会保障特別税、④国庫負担、⑤他の公費、⑥資産収入、⑦その他、⑧他制度からの移転、である。

わが国の場合、③社会保障特別税の項目にあたるものはないが、諸外国（例：アメリカ・フランス）にはあるので、ILOの表では分類に含まれている。また、⑧他制度からの移転、は収入の二重計算を防ぐために別掲してある。以下、社会保障財源として挙げる数字は、この⑧他制度からの移転、を控除したものである。

④国庫負担には、中央政府が支出する金額、すなわち国庫が負担している金額が計上される。⑤他の公費は、都道府県と市町村が支出する金額の合計である。事業によって自治体の負担割合が決まっている場合と決まっていない場合があるが、その両方の費用を含む。⑥資産収入には、利子・利息・配当金、また一部の制度については、施設利用料・賃貸料・財産処分益・償還差益等がふくまれる。多額の積立金を有する制度（年金・雇用保険等）においては、特にこの資産収入が大きい。⑦その他には、受取延滞金・損害賠償金・手数料・分担金・繰入金・繰越金・雑収入等の残余の収入が含まれる。⑧他制度からの移転は、ある特

定の給付に対する負担を複数の保険者で分担している拠出金制度において、他の保険者から受け入れる拠出金又は交付金である。これには、医療保険制度関係では国民健康保険が受け入れる退職者医療に係る各保険者からの拠出金、政府管掌健康保険が受け入れる日雇特別被保険者に係る拠出金、老人保健の財源となっている各医療保険者が拠出する老人保健拠出金がある。また、年金保険制度では、国民年金の基礎年金勘定が受け入れる、基礎年金相当分に係る各年金保険者からの拠出金、厚生年金の制度間調整勘定が受け入れる各被用者年金保険からの拠出金がある。

II 7年度社会保障財源推計結果の概要

平成7年度の社会保障財源の総額は、85兆709億円であり、財源別では、被保険者拠出が24兆4,146億円、事業主拠出が26兆8,075億円、国庫負担が16兆5,680億円、他の公費負担が4兆2,218億円、資産収入が9兆8,116億円、その他が3兆2,473億円となっている。

社会保障財源の構成割合をみると割合の大きい順に、事業主拠出が31.5%、被保険者拠出が28.7%、国庫負担が19.5%、資産収入が11.5%、他の公費負担が5.0%、その他が3.8%となっている。過去の動向からみて財源構成に特に大きな変化はみられない。

社会保障に係る公費の負担は約24%と近年安定しているが、長期的にみると主に国庫負担割合の低下により低下傾向にある。（「表2-1 社会保障財源の項目別推移」を参照）

表2-1 つづき

年度	被保険者拠出	割合	事業主拠出	割合	公費負担	割合	国庫負担			資産収入	割合	その他	割合	合計	国内総生産	GDPデフレーター
							国庫負担	割合	他の公費	割合						
60 (1985)	131,583	27.1	144,365	29.7	138,056	28.4	117,880	24.3	20,177	4.2	62,020	12.8	2.0	485,773	3,242,896	93.9
1986	136,729	26.7	155,066	30.3	142,982	27.9	119,920	23.4	23,061	4.5	68,872	13.4	1.7	512,442	3,393,633	95.3
1987	143,348	26.9	161,276	30.2	145,319	27.2	121,474	22.8	23,845	4.5	71,981	13.5	2.2	533,637	3,555,218	95.3
1988	151,122	26.4	171,710	30.0	162,896	28.4	137,404	24.0	25,492	4.4	74,309	13.0	2.3	573,062	3,796,568	96
平成元	163,037	27.0	188,137	31.2	153,183	25.4	127,420	21.1	25,763	4.3	77,015	12.8	3.6	603,167	4,064,768	98.4
1990	184,985	27.9	210,210	31.7	161,971	24.4	134,559	20.3	27,412	4.1	83,580	12.6	3.5	663,661	4,388,158	100.6
1991	200,293	28.3	224,395	31.7	170,281	24.1	141,105	19.9	29,176	4.1	89,374	12.6	3.3	707,713	4,631,744	103.2
1992	208,474	28.2	234,789	31.8	180,756	24.5	147,353	19.9	33,403	4.5	90,810	12.3	3.3	739,173	4,719,257	104.7
1993	216,892	28.2	242,599	31.6	188,313	24.5	153,400	20.0	34,913	4.5	95,171	12.4	3.3	768,377	4,767,461	105.3
1994	225,468	28.3	249,454	31.4	194,761	24.5	156,930	19.7	37,831	4.8	93,630	11.8	4.1	795,679	4,790,264	105.1
7 (1995)	244,146	28.7	268,075	31.5	207,899	24.4	165,680	19.5	42,218	5.0	98,116	11.5	3.8	850,709	4,885,225	104.6

(注) 1. 社会保障財源は、ILO基準に基づく分類(他制度からの移転を除く部分)に従い、年次別に掲載したものである。但し、「社会保険特別税」は我が国では存在しないため表示していない。

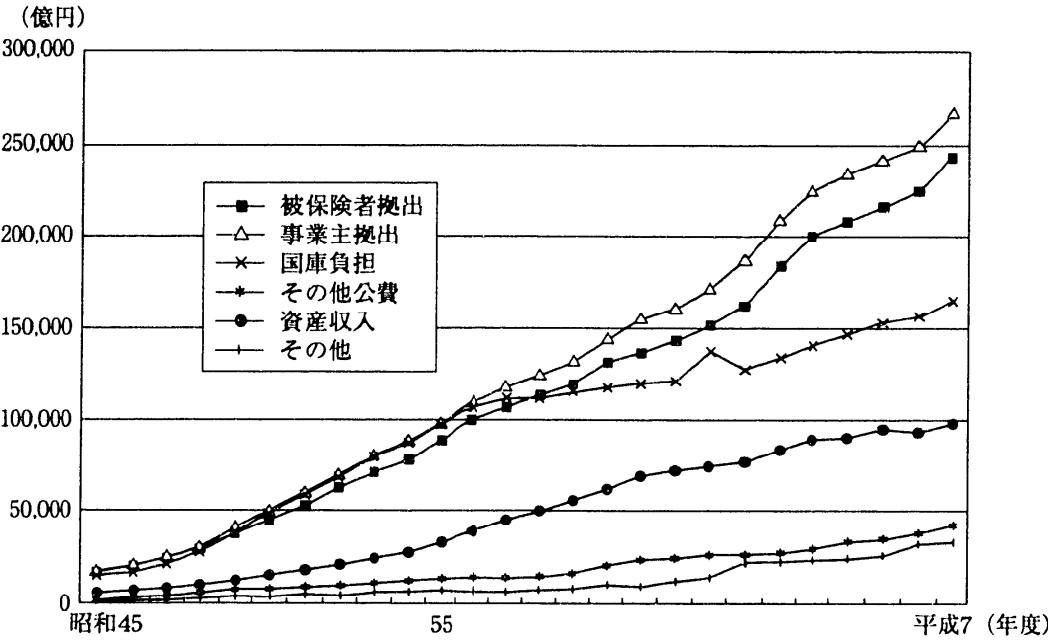
2. 公費負担とは「国庫負担」と「他の公費」の合計である。また、「他の公費」とは地方自治体の負担を示す。

3. 国内総生産とGDPの出所は表1-1(資料)と同じ。

表 2-2 社会保障財源と国内総生産の対前年度伸び率

(単位: %)

	被保険者拠出	事業主拠出	公費負担	国庫負担	他の公費	資産収入	その他	合 計	国内総生産
1961	25.0	△ 9.0	77.1	91.3	8.2	35.6	42.8	24.7	20.9
1962	19.6	20.3	11.6	10.7	18.6	26.6	40.3	17.9	10.7
1963	17.8	21.1	20.3	19.8	24.4	22.6	22.5	20.1	17.5
1964	17.5	15.7	17.9	15.7	35.4	24.7	3.3	17.0	15.9
昭和 40 (1965)	28.7	23.2	21.5	22.0	17.7	26.0	62.4	25.4	11.1
1966	19.7	19.0	14.8	14.8	15.2	27.9	66.8	20.2	17.6
1967	13.7	17.7	15.2	15.7	11.7	26.9	32.2	17.2	17.0
1968	20.0	16.1	17.1	17.6	13.9	25.5	15.7	18.1	18.3
1969	24.8	18.0	12.7	12.8	11.4	25.4	△ 74.8	13.3	18.4
45 (1970)	17.8	21.8	20.8	20.5	22.9	24.0	45.9	20.8	15.7
1971	19.8	21.7	12.6	12.9	10.0	26.8	19.9	18.8	10.1
1972	16.8	16.9	25.0	23.1	39.1	22.4	27.4	19.9	16.4
1973	23.5	24.3	32.8	32.1	37.3	21.5	△ 11.6	25.7	21.0
1974	38.3	37.4	40.1	40.6	36.9	28.5	50.6	37.9	18.6
50 (1975)	18.9	22.7	29.0	30.3	21.0	24.7	34.1	24.0	10.0
1976	18.4	18.7	19.6	20.2	15.3	18.9	79.2	19.8	12.4
1977	19.9	17.2	16.2	16.6	13.8	20.2	△ 12.8	17.2	11.0
1978	13.3	11.9	17.3	17.7	14.1	14.0	43.3	14.7	9.7
1979	10.4	9.0	11.3	11.2	12.2	14.8	6.7	10.6	8.0
55 (1980)	13.0	12.9	9.7	10.0	7.7	19.9	7.5	12.4	9.0
1981	12.8	12.9	7.8	8.0	6.4	18.8	3.3	11.6	6.2
1982	7.2	7.0	5.3	5.7	1.9	15.1	△ 6.6	7.1	4.8
1983	5.0	5.9	0.1	△ 0.7	7.0	12.6	13.9	4.7	4.5
1984	5.5	6.1	4.4	3.9	7.8	11.3	13.2	6.1	6.8
60 (1985)	10.7	9.2	5.3	2.1	28.3	11.6	29.4	9.1	6.3
1986	3.9	7.4	3.6	1.7	14.3	10.0	△ 9.8	5.5	4.6
1987	4.8	4.0	1.6	1.3	3.4	4.5	33.2	4.1	4.8
1988	5.4	6.5	12.1	13.1	6.9	3.2	11.2	7.4	6.8
平成元 (1989)	7.9	9.6	△ 6.0	△ 7.3	1.1	3.6	67.3	5.3	7.1
1990	13.5	11.7	5.7	5.6	6.4	8.5	5.1	10.0	8.0
1991	8.3	6.7	5.1	4.9	6.4	6.9	2.0	6.6	5.6
1992	4.1	4.6	6.2	4.4	14.5	1.6	4.2	4.4	1.9
1993	4.0	3.3	4.2	4.1	4.5	4.8	4.4	3.9	1.0
1994	4.0	2.8	3.4	2.3	8.4	△ 1.6	27.4	3.6	0.5
7 (1995)	8.3	7.5	6.7	5.6	11.6	4.8	0.3	6.9	2.0



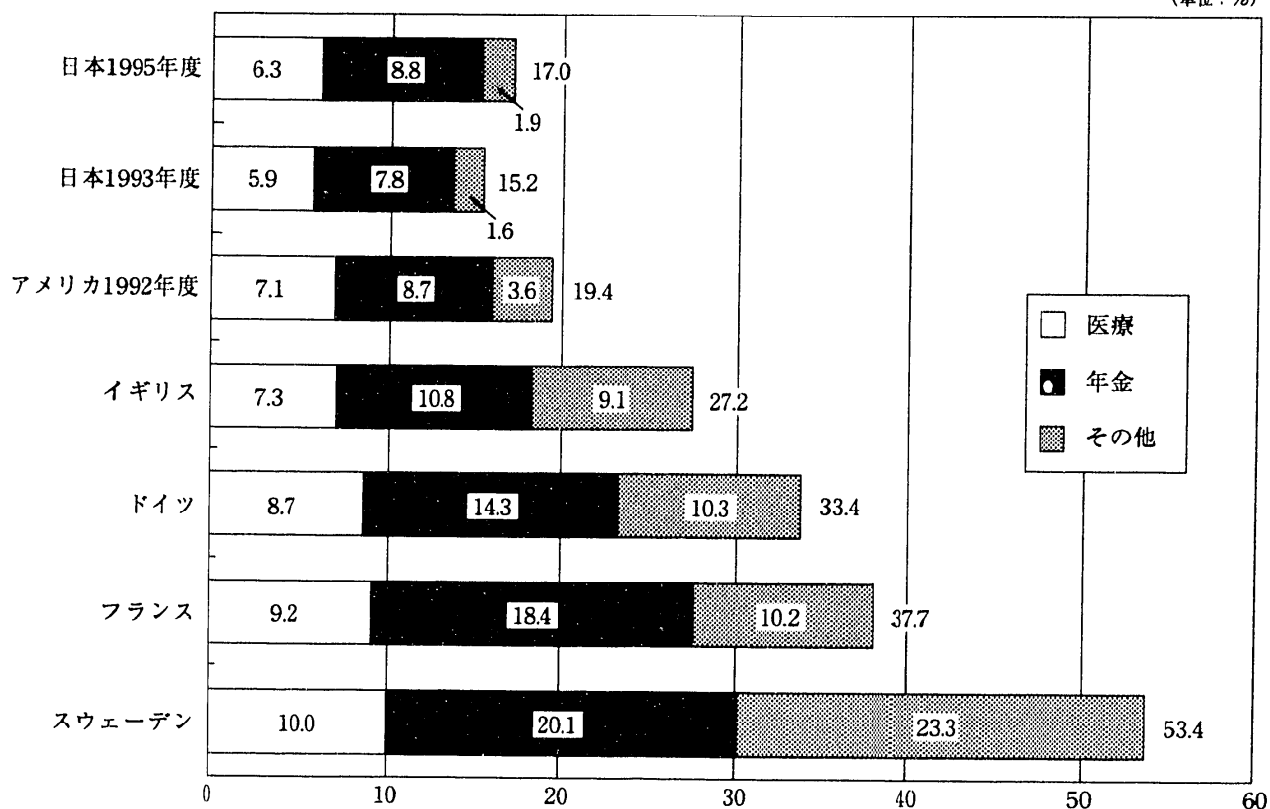
◆参考 国際比較

国際比較表 1 社会保障給付費、租税・社会保障負担率等の国際比較 (単位：%)

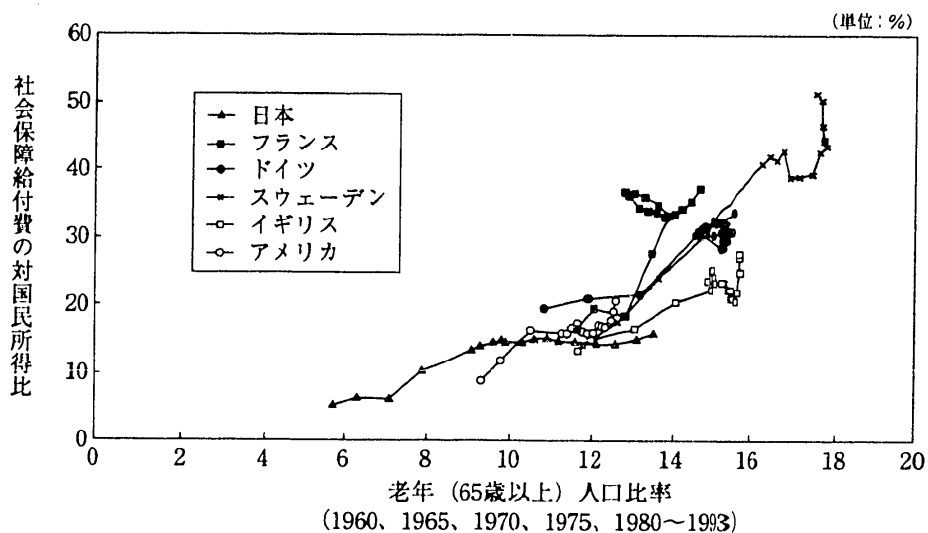
国 名	社会保障給付費 の対国民所得比	老年人口比率 (65 歳以上 人口比率)	租税・社会保障負担の 対国民所得比 (1993 年)		
			租税負担	社会保障負担	計
日 本	15.2	13.5	24.4	12.1	36.5
1995 年度	17.0	14.5	23.3	13.3	36.7
ア メ リ カ	19.4*	12.6	25.9	10.6	36.5
イ ギ リ ス	27.2	15.7	36.0	10.2	46.2
ド イ ツ	33.4	15.6	31.3	24.9	56.2
フ ラ ン ス	37.7	14.6	33.3	29.0	62.3
ス ウ ェ ー デ ン	53.4	17.6	50.5	19.9	70.4

(注) 1. 社会保障給付費は ILO 基準による。
2. アメリカの社会保障給付費については、データが作成されていないため、参考に 1992 年度の数値を掲げた (*)。
3. 租税・社会保障負担の対国民所得比は、日本については年度、諸外国は暦年である。
(資料) 諸外国の国民所得は OECD (1996) "National Accounts", 老年人口比率は OECD (1996) "Labour Force Statistics", 租税・社会保障負担の対国民所得比は財政調査会 (1997) 「平成 9 年度予算の話」による。

(単位: %)



国際比較図1 社会保障給付費（対国民所得比）の部門別構成割合の国際比較（1993年度）



(注) 1. ドイツについては、1990年までは旧西ドイツ、1991年からは統一ドイツの数値である。
 2. アメリカについては、1960年および1993年のデータが入手不能。

国際比較図2 老年（65歳以上）人口比率と社会保障給付費（対国民所得比）の国際比較

国際比較表2 老年(65歳以上)人口比率と社会保障給付費(対国民所得比)の国際比較

(単位: %)

年	フランス		ドイツ		スウェーデン		イギリス		アメリカ	
	老年人口 比 率	社会保障 給付費比	老年人口 比 率	社会保障 給付費比	老年人口 比 率	社会保障 給付費比	老年人口 比 率	社会保障 給付費比	老年人口 比 率	社会保障 給付費比
1960	11.6	16.3	10.8	18.5	11.8	13.2	11.7	12.3	9.2	n.a.
1965	12.1	18.9	11.9	20.1	12.7	16.8	12.0	14.1	9.3	7.9
1970	12.9	17.8	13.2	20.5	13.7	23.0	13.0	15.9	9.8	10.7
1975	13.5	26.9	14.5	29.0	15.1	30.9	14.0	19.3	10.5	15.2
1980	13.9	33.2	15.5	30.0	16.3	39.2	14.9	22.4	11.3	14.8
1981	13.6	34.7	15.3	31.4	16.5	40.9	15.0	24.7	11.4	15.0
1982	13.3	36.1	15.0	31.9	16.6	40.7	15.0	25.6	11.5	15.9
1983	13.0	36.9	14.8	31.0	16.8	42.7	15.0	25.2	11.7	16.4
1984	12.9	37.1	14.7	30.5	17.0	39.3	14.8	23.7	11.8	15.2
1985	12.9	36.8	14.8	30.1	17.2	39.8	15.1	23.6	11.9	15.1
1986	13.2	34.6	15.1	29.3	17.5	40.2	15.3	23.7	12.1	15.1
1987	13.4	34.2	15.3	29.7	17.7	43.7	15.5	22.7	12.2	16.0
1988	13.6	34.2	15.4	29.7	17.8	44.8	15.6	21.5	12.3	15.8
1989	13.8	33.6	15.4	28.4	17.8	44.6	15.6	20.9	12.4	15.7
1990	14.0	34.0	15.3	27.5	17.8	46.6	15.7	22.0	12.5	16.5
1991	14.2	34.8	14.6	29.7	17.7	49.1	15.7	25.0	12.6	18.0
1992	14.4	35.8	15.2	31.5	17.7	52.5	15.8	26.8	12.6	19.4
1993	14.6	37.7	15.6	33.4	17.6	53.4	15.7	27.2	12.7	n.a.

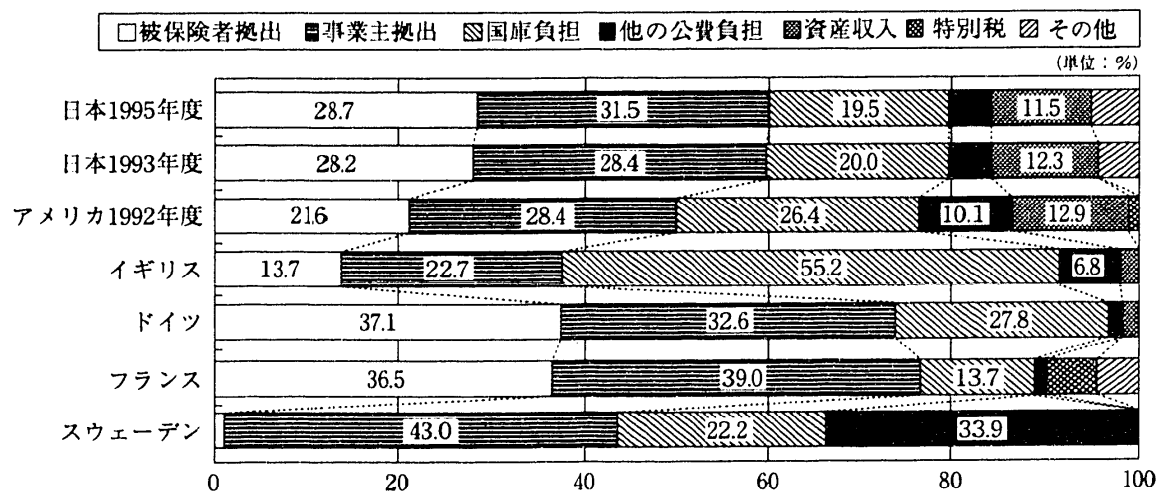
(注) 1. 社会保障給付費はILO基準による。

2. 老年人口比率は年値, 社会保障給付費の対国民所得比は年度値である。

3. ドイツについては, 1990年までは旧西ドイツ, 1991年からは統一ドイツの値である。

(資料) 老年人口比率はOECD(1996) "Labour Force Statistics", 国民所得はOECD(1996) "National Accounts" による。

[A]



(注) 1. 社会保障財源は、ILO基準に基づく分類（他制度からの移転を除く部分）に従い、計上している。

2. 社会保障財源は、社会保障給付費の財源のほか、各制度の管理費等の財源から構成されている。

[B]

	被保険者拠出	事業主拠出	国庫負担	他の公費負担	資産収入	特別税	その他
日本 1995 年度	28.7	31.5	19.5	5.0	11.5	—	3.8
日本 1993 年度	28.2	31.6	20.0	4.5	12.3	—	3.3
アメリカ 1992 年度	21.6	28.4	26.4	10.1	12.9	0.6	0.0
イギリス	13.7	22.7	55.2	6.8	1.5	—	0.1
ドイツ	37.1	32.6	27.8	0.0	0.9	—	1.7
フランス	36.5	39.0	13.7	0.0	0.9	5.6	4.3
スウェーデン	0.9	43.0	22.2	33.9	0.0	—	—

(注) 端数処理の為, %の値を合計しても100.0%にはならない。

国際比較図3 社会保障財源の構成割合の国際比較 (1993 年度)

〈平成9年度推計作業における時系列データの改訂について〉

直近の推計作業の検証において次の制度の平成3年度から6年度の計数の訂正が行われた。数値の改訂が行われたのは, 14(A) 国家公務員共済組合, 14(B) 旧公共企業体職員等共済組合, 15(A) 地方公務員共済組合, 22. 公衆衛生, における数値である。過去の給付費総額に影響を与えた改訂は次の2点である。

- ① 15(A) 地方公務員共済組合において平成4年度から未計上だった一部年金給付の遡及計上の結果として年金給付額の増加が若干あった。
- ② 22. 公衆衛生における平成5年度以降の保健事業費等補助金の一부분類を医療給付から施設整備費へと訂正したことにより, 医療給付費の減少が若干あった。

したがって, 過去に公表した社会保障給付費の総額が平成4～6年度の3年度間において更新された。

なお, ここに掲載したデータのほとんどは, 国立社会保障・人口問題研究所のホームページ (<http://www.ipss.go.jp>) よりデータとしてダウンロードすることができる。

(注) 表における表章記号は以下のとおり。

計数のない場合	—
比率が微小 (0.05 未満) の場合	0.0
推計数が表章単位の 1/2 未満の場合	0
減少数 (率) の場合	△

〈国際比較データについて〉

参考: 国際比較としてここに示したデータの詳細については, 当研究所刊行の『海外社会保障情報 (No. 117, Winter 1996)』を参照いただきたい。諸外国から入手したデータは, 1993 年が最も新しいものだが, アメリカについては 1992 年と 1 年のずれがある。

参考文献

『社会保障費統計の仕組みと概要』, 平成9年
国立社会保障・人口問題研究所 研究報告 No. 9701.

【お詫びと訂正】 季刊社会保障研究第32巻第3号「平成6年度社会保障費」に掲載した数値に誤植がありましたので, お詫びし以下のように訂正いたします。なお, 海外社会保障情報 (No. 117, Winter 1996) に掲載された数値に誤植はありません。

376 頁 図2-3 社会保障財源構成の国際比較:

アメリカ (1992) 被保険者拠出 (誤) 23.8 (正) 21.6, 事業主拠出 (誤) 31.6 (正) 28.4, 特別税 (誤) 0.5 (正) 0.6, 国庫負担 (誤) 24.0 (正) 26.4, 他の公費負担 (誤) 9.1 (正) 10.1, 資産収入 (誤) 11.0 (正) 12.9

スウェーデン事業主拠出 (誤) 39.9 (正) 39.8